民間信仰

民間信仰は長い歴史の中で支えられ伝承されてきた。その多くは自然に発生した原始信仰の名残であるが、中には既製宗教から変容したものや、神仏習合的な信心の形が見られる。殆どの家では神と仏が同居しているが何の不思議もない。

地の神、田の神・山の神・火の神・水の神・道祖神・荒神・稲荷・秋葉・金比羅・地蔵・観音・弘法大師など多くの神仏が祀られている。

現在、農民の間に伝承されてきている田の神祭り、山の神祭り、水神祭り、大工職人仲間の太子講などが代表的な民間信仰である。

祭日や祀り方は、地域や祀る人によってそれぞれ特色があり、地域全体で祀る他、私宅で祀られているものなどがある。

神様系の信仰

家庭での祀り方：神社から毎年頂く神札は、天照皇大神宮（中央）・氏神（向かって右）・崇敬神社（左）の順に並べ注連縄（しめなわ）を張って御幣（ごへい）を飾り、米（正月は餅）御神酒・水・塩・果物を供える。供花は榊が一般的で、朔日（ついたち）・１５日は花を取り替える。

神社や社などの飾り物（注連縄・御幣・供花など）は共通で、供え物には上記の五品か、七品（魚・根菜類・葉野菜などが加わる）を三宝にのせて並べる。

二拝・二拍手・一礼の作法で拝礼する。（作法はどの神様も同じ）

地の神様（屋敷神）　病魔退散祈願

祭祀地：枦の原下・新休・引地

中鶴　祭祀者：４軒共同　祭礼：旧１１月

洗切　ご神体：自然石

梶山　祭礼：旧１０月２３日　ご神体：自然石

その他、個人でも祀られている。

仁田さま（田の神様）

祭祀地：本村神社・宇土梶山・下鶴　祭礼：１１月の午末の日　五穀豊穣を祈願

※昔、梶山の梶本家の畑に赤い大きな石があり、毎月１日、１５日になると「ちりりん、

ちりりん」と鈴の音が聞こえてきた。

その話しを伝え聞いたある男が「この石は神様に違いない。村の氏神様と一緒に祀る事にしよう」と言って、その石を運ぶ事にした。

男は「儂がお連れ申し上げますけん、どうぞ軽うなって下っせ」と言うと石はたちまち軽くなった。ところが、下鶴まで来た頃、背負っていた石が急に重くなり田圃に転げ落ちて割れてしまった。

男がにたうって石仏を落したので、その欠片を「仁田さま」と称して、下鶴の田圃に祀ってある。

※地元では、腰砕けて転倒したり、泥まみれになる事を「にたうつ」と言う。

御神体は本村の氏神さまとして祀られてあるが、その分身を下鶴と梶山区民の地の神様として祀る。

山ン神さま

「古事記」によると祭神は大山津見神で、「日本書紀」によると大山祇命（すみのみこと）であるとされ、日本中の山を司り水源や田の実りを支配する神とされる。

しかし、女神で木花之開耶姫（このはなさくやひめ）という説もあり、本町ではもっぱら女神伝説が聞かれることから後者を祀っているようである。

山の神は、秋の収穫後は山へ籠もり春には里に下りて田の神となるという。

一方、とくに山仕事に携わる人たちは「山の神は山中に常住す」ると信じている。

祭祀地：枦原上　祭礼：１１月亥の日

下河内　創建：明治２７（１８９４）　祭礼：１１月亥日　川神様と合祀

新休黒岩　祭礼：１１月初丑の日

寺領コッテイ　祭礼：１１月申の日　前原・引地・平地区

二又　祭礼：１１月辰の日

福岡　祭礼：１２月初丑の日

平床万所　創建：正保元年（１６４４）　祭礼：旧１１月子の日

中鶴（矢英）　ご神体：自然木（樹齢：推定二〇〇年以上）

上鶴　建立：昭和 29 年　祭礼：１１月初未の日　鶴・宇土

洗切

左から

下河内

寺領

中鶴（矢英）

上鶴（堂・ご神体）
洗切

※下河内の山の神祭りは、旧１１月戌の日で餅・御神酒・魚（オコゼかガラカブ）を供える。ニガマの竹筒を藁シベで結んだ小さな酒器を１２対（閏年は１３対）作り、御神酒を注いで供える。参拝者には御神酒やおにぎり、煮染めなどが振る舞われる。

山の神は女神で醜い上に嫉妬深くケチなので、「よかおなご」を見たらやっかみ半分、尻についた埃でさえも「つんぶるえ」（払い落とせ）と、尻を叩くのだと言い伝えられている。他方、ご婦人が丈夫な子を産むように安産祈願という説もある。

昭和２５年頃までは参拝者が「山ン神のジゴ叩き」といって樫の小枝（柴）で若い女性の尻を叩きながら追い立てるにぎやかな祭りであったが、近年「当もと」と呼ばれる役回りの人が供え物をして祀るだけになった。

※新休では、祭壇に粢（しとぎ）・甘酒・ドグラかオコゼ・樫の枝を供える。甘酒に拘（こだわ）るのは、山の神の醜い顔が盃に映るのを憚（はばか）っての心遣いだという。

参排者は茅（ち）の輪状の輪を藁で作り、左周り、右回り、左回りと８の字を描いて輪をくぐって身を清めた後、供え物や甘酒が振る舞われる。

※寺領では、供えものはトゲのある、ヒイラギ・シイラギ・ヤマミカン（カカツガユ）・山姥のタスキ（ヤマシバタスキ）の４種類を役回りの当番が準備して供える。

参拝者は樫の小枝（柴）を家族や家畜の数だけ束ねて祭壇に供える。

※福岡では、柴を供える時「奥山３３体、中山３３体、里山３３体納めます」と口上をのべ、役回りで「当任（とうにん）」になった人が行事を仕切る。

参拝者は、ヘワ（茅（ち）の輪状の藁の輪）をくぐり家内安全を祈る。御神酒や料理が振る舞われる。

鶴・宇土では、前夜から「お待ち籠（こも）もり」で賑わう。

※祀り方は、地区それぞれに特色がある。

秋葉さま（秋葉神社）　火の神様

静岡県秋葉山の秋葉神社が総本社である。秋葉権現の伝説では飯綱権現（翼地蔵の原形）の信者であったある女性が観世音菩薩を夢見て処女懐妊し男児を生んだ。その子が長じて修験の法を会得し火焔の中で剣を持ち鳥の形になって翼を広げて飛ぶ業を感得して秋葉権現となり、衆生済度（人々を苦しみから救う）に励んだとされている。秋葉権現は「一切の不浄を焼き尽くして再生を図る火防の神として江戸時代から祀られている。

各戸から持ち寄った料理や御神酒を囲んで賑わう。

祭祀地：下掛道　創建：明和７年（１７７０）　祭礼：１２月１日　防火祈願
　　上掛道　祭礼：２月４日・１２月４日

横久保　祭礼：２月４日・１２月４日
道面　創建：大正１２年（１９２３）　祭礼：２月４日
新休竹の尾　創建：文化２年（１８０５）　祭礼：３月４日
福岡永田　創建：天明６（１７８６）　祭礼：３月４日
　各戸から持ち寄った料理や酒を接待。
万所　祭礼：３月１８日
下鶴　祭礼：４月４日

愛宕（あたご）さま（愛宕権現）　防火の神
　総本社は京都の愛宕神社で全国に８００余社ある。祭神は火産霊神（ほむすびのかみ）で、防火・農耕の守護神である。
　愛宕山は、神仏習合の発展に伴い修験者の修行の場となり、祭神も天狗の姿をした愛宕権現太郎坊とも称された。
　　祭祀地：新休竹の尾　創建：文化２年（１８０５）
　　祭礼：３月２４日　豊作祈願
　　前原　祭礼：７月土用三郎の日（三日目）
　　洗切　祭礼：１２月５日

竈（かま）荒神　三宝荒神
　不浄や災難を除去する神とされることから、火と竈の神として信仰され、各戸で祀られた。また、農耕の神として早苗饗（さなぼり）には「よく実りますように」と念じて稲苗３束を竈（かまど）荒神に供える風習があった。
　仏教系では仏・法・僧の三宝を守る神様とされ、江戸時代～昭和中期頃までは民家の台所には必ずといってよいほど祀られていた。外へ遊びに出る時は災難に遭わないように竈の墨を額に付け荒神様のご加護を祈った。荒神墨を塗ったおかげで河童（かっぱ）の難をのがれたという話を子どもの頃よく聞いた。

水神さま
　農民にとって水は最も重要なものの一つであり、水次第で収獲が左右されることから、水神は山の神・田の神と結びつき、山の水源や用水路沿いに祀られていることが多い。農耕以外にも日常生活で使用する水については、井戸や水汲み場に祀られている。
　祭祀地：枦原上
　　下河内　創建：明治２７（１８９４）　山の神と合祀
　　寺領（平・寺尾）

二叉黒染　祭礼：秋の彼岸の中日
福岡上の原　祭礼：秋の彼岸明けの前日
平床万所　祭礼：旧１１月子の日
下鶴　祭礼：９月２２日
梶山

下河内
寺領平・寺尾
下鶴
梶山

山王神社（農業神・水神）
　農業神・水神として山の自然と流水を司り、万物を化育する結びの霊徳を有する神で、この神を祭る神社は全国に約５千社ある。神仏習合が進み比叡山延暦寺の守護神でもある。また、子育ての神として知られ、阿蘇神社境内にも祭られている。

さんのんさま（山王宮）
　祭祀地：寺領前原
　鳥居建立：安政７年（１８６０）
　祭礼：１１月１１日
※鳥居には、庄屋鶴田新五左衛門・年寄八重蔵・百姓代又右衛門・野島万次良・他３６名と記してある。区民が社殿や境内の清掃や注連縄飾りをしてお祭りをする。

龍頭さま（龍頭王（りゅうずおう）　八大龍頭水神）
　高千穂には八大龍頭神社があり水神を祀る。
　祭祀地：二又轟　雨乞い祈願

三宮社

　本社は京都西京極の三宮神社で、大宝年代の創建といわれ、玉依姫命を祀っていたが、のちに大山祇神・酒解神を合祀して三宮社と称したと伝えられる。
　祭祀地：東向寺の鎮守神
　創建：文政７年甲申（１８２４）９月
※拝殿の両脇には天狗の面２体を献納してある。
東向寺が修験寺と言われていたことから、愛宕権現を合祀したのではないだろうか？

鎮守さま　氏神さま（地元神社）
　祭祀地：横久保　祭礼：１１月１１日　豊作祈願
　天照皇大神宮を祀る

稲荷さま（稲荷神社）　農業の神様
　総本社は京都の伏見稲荷大社で、全国に３万社を数える。
　本来稲荷さまは「稲生り・稲成り」のことであり、食物の神様で、五穀豊穣の御神徳を現わしている。後には城や寺院でも祀られ、近来は商社など各種産業の守護神としても祀られている。狐は稲荷の神の使いとする俗信から狛犬を御神体としてお祀りしてある。赤い鳥居が特徴である。
　祭祀地：上掛道　下の尾　祭礼：２月初午の日
　　新休　黒岩花谷庵境内　祭礼：３月初午の日　豊作祈願
　　寺領引地　磨田安男家・野島一利家　祭礼：２月初午の日　氏子２０軒程
　　二又轟　祭礼：２月初午の日
　　下平床・広野・
　　福岡上（豊受大神）　祭礼：２月初午の日
　　注連縄を飾り、米・餅・酒・魚・野菜・塩を供える
　　洗切　祭礼：２月初午の日　上鶴・宇土区民
　　私宅祭祀：道面の佐藤家・

金毘羅さま（金刀比羅宮・琴平宮・金毘羅大権現）　海の守り神　豊作祈願

金刀比羅宮（ことひらぐう）は、香川県琴平町の象頭山（ぞうずさん）中腹に鎮座する神社で、こんぴらさんと呼ばれて親しまれており、金毘羅宮や、まれに琴平宮とも書かれ、明治より前は金毘羅大権現と呼ばれた。全国の金毘羅神社（金刀比羅神社・琴平神社）の総本社である。

祭神は大物主神（おおものぬしのかみ）で、別名大国主命（おおくにぬしのみこと）と呼ばれ、広く万物の主たる神であることを称えた神名で、人々に福徳の御光を与えて下さる神様として祀られている。また、航海の安全を守る神として漁民の参詣者も多い。

金毘羅参りは伊勢神宮へのお陰参りに次ぐ庶民の憧れだったといわれ、「金毘羅船々追風（おいて）に帆かけて　シュラシュシュシュ　まわれば四国は讃州（さんしゅう）　那珂（なか）の象頭山（ぞうずさん）　金毘羅大権現（だいごんげん）」一度まわれば…」の唱歌はお馴染みである。

町内で最も古いのは新休の金毘羅さんで、各地で持ち寄りの料理を囲んで賑わう。

祭祀地：道面　祭礼：４月１０日
横久保　祭礼：４月１０日
新休中尾　創建：寛政７年（１７９５）　祭礼：４月１０日
寺領垣内　創建：明治３４年（１９０１）　祭礼：３月１０日
二又轟（琴比羅様）　祭礼：３月１０日
矢筈岳　創建：天保９年（１８３８）　祭礼：３月１０日
下鶴　祭礼：３月１０日
上鶴　創建：文政８（１８２５）・昭和６年　祭礼：３月１０日
田代　祭礼：３月１０日
梶山　創建：明治３１年（１８９８）　祭礼：３月第一日曜
祇園さま・志賀さまを合祀
私宅祭祀：福岡の鶴田豊勝家

祇園さま（八坂神社）　無病息災祈願

京都市東山区祇園町の八坂神社元官弊大社　創建：寛延２年（１７４９）慶応４年（１８６８）祇園社を八坂神社に改称された。

分社は全国各地に９千社ある。祇園祭や夏祭りでは、疫病を逃れるため「茅の輪」をくぐって身を清め、お祓いをする。

祭祀地：下向・寺領

新休野田　創建：明治２４年（１８９１）　祭礼：６月１４日　灯籠を献ず

梶山　鳥居建立：嘉永３（１８５０）

石碑創建：明治２６年（１８９３）　祭礼：３月第一日曜

※明治の初め頃、赤痢が大流行し死者が出たため梶山の山頂に「祇園さま」を守護神として祀る。

６月１４日の前夜祭には歌舞伎が奉納され、地元は元より福連木、都呂々などからも大勢の参拝者や見物客が訪れた。

現在は、毎年３月第一日曜日に祇園さま、志賀さま、金比羅さまを一緒にお祀りし、注連縄を換えてお神酒や魚、野菜などを供え、神主を招き祭礼が行なわれている。

春日大明神（春日大社）春日さま

祭神は猿田彦大神。奈良市春日野町の春日神社（元官弊大社）が本社。明治４年に春日神社に改称、昭和２１年（１９４６年）に現在の春日大社に改称。

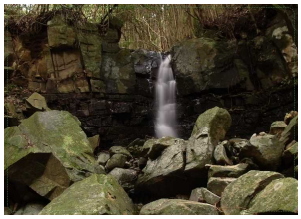
祭祀地：平床松の塚　祭礼：４月４日　平床区民

宇土永野　祭礼：３月４日

洗切

百貫さま（春日大明神）　祭礼：４月８日　無病息災祈願
※平床松の塚は、広瀬川の源流、平床下田（げた）の里には、苔むした杉木立の中に「百貫石」と言う巨大な一個の岩石がある。その石の上には「春日大明神」をお祀りしてあり、子供の引き付けに御利益があると言われている。昔からこの百貫石の下には「金の鳥」が棲んでいて、年に一度、大晦日の夜更けには、石の下より出て水浴びをするのだそうな。「この水を飲むと長寿を保つ事ができると」言い伝えられている。

村人たちは、この金の鳥の霊験を授かろうと、元旦の明け方まだ辺りは薄暗い内に、一家の主人がこの水を汲んでお茶を沸かし、神仏に供えて家族全員がこれを頂き、一年の無病息災を祈願した。近郷から参拝者が訪れる。



志賀大明神　疫病退散　健康祈願

疱瘡の痕跡が鹿の斑点に似ていることから「鹿様」とか「志賀宮」として各地で祀られている。鹿大明神と刻され、動物の鹿の石像や鹿の角を供えたりしてある処もある。

祭祀地：福岡　祭日：２月初午の日

創建：天保４年癸巳（１８３３）８月　願主 鶴田兼造 源助

※昔、疱瘡（天然痘）が蔓延したため、治癒を祈願して建立された。

稲荷様・まき様の祭りも同時に村中総出でお祭りをする。

志賀さま（志賀大明神）　病魔退散　健康祈願

祭祀地：宇土梶山

創建：天保６年乙未（１８３５）　祭礼：３月第１日曜日

鳥居建立：嘉永３年（１８５０）

※鶴・宇土中の信者により建立され、金属製鳥居や鹿の石像等が数多く奉納されている。

当時、宇土の梶山で天然痘を患って山奥の舟木の谷迫に隔離されていた一人息子が九死に一生を得たことから、祈願成就のお礼に鳥居建立を思い立った村人が、鶴や永野、洗切など郷中１２０余人の加勢を受けて鳥居を完成させたと云う。

志賀さま、祇園さま、金比羅さま合同で祭る、注連縄を取替えて、お御神酒や魚・野菜などを供え、神職が祝詞を奉上して祭礼が行なわれている。

猿田彦さま（屋敷神）

古事記および日本書紀の天孫降臨の段に登場する。猿田彦神社は、三重県伊勢市の伊勢神宮内宮の近くにある神社である。

仏教系では。「サル」の音から「庚申講」と結び付けられ、昭和中期頃までは徹夜で談笑しながら夜を過ごす行事「庚申さま」の祀りも残っていた。

祭祀地：杪原（林家）　創建：明治２５年（１８９２）１月

寺領の井上家

摩利支天さま（まりしてん）　古代インドの神様　武道の神

摩利支天は陽（かげろう）炎を神格化したものである。陽炎は実体がないので捉えられず、焼けず、濡らせず、傷付かない。隠形の身で、つねに日天の前に疾行し、自在の通力を有すとされる。

祭祀地：寺領平　創建：文政１１年（１８２８）

粟島さま（**淡島大明神**）　薬の神　安産祈願

一般的には、住吉大神の后で、婦人病・お産の神として祀られている。女神を祀る山の神信仰の一つである。

祭祀地：梶山（中尾家・久保田家）

祭礼：春祈祷の日

宮地嶽生目社

古くから眼病にご利益がある目の神様として、広く知られている。生目さんの近くには綺麗な湧水があり、この「お水」で洗眼すれば眼病が治ると言われ、昔からこの水を汲みに訪れて参拝し、願を掛けた。

祭祀地：梶山

天神さま（天満宮（てんまんぐう））　開運・合格祈願　五穀豊穣祈願

元の天神は、天変地異を支配する神であったが、平安前期の学者・政治家で三聖人の一人と言われた。政治的不遇を被った菅原道真公の怒りを静めるため神格化し、祀っている神社である。

「天神さま」とも呼ばれ、学問の神様・書道の神・子育ての神などどして人々に信仰され、特に入学試験や様々な受験者の合格祈願に訪れている。全国に約１万５百社ある。

※「東風（こち）吹かば　匂ひをこせよ　梅の花　主（あるじ）なしとて　春な忘れそ」の句は有名。

祭祀地：下向　建立年月日不詳　新旧２体　現在、社は崩壊し取り壊された。

新休神社の産土神　建立：文政１２年（１８２９）９月

寺領平（迦葉軒の鎮守）　創建：天保５年（１８３５）９月　祭礼：10/25

※村長　鶴田左一郎　隠住喝三和尚代 天保１０年（１８３８没）

清正公さま（せいしょうこう）　家内安全、五穀豊穣祈願

加藤清正は、肥後熊本藩初代藩主で、豊臣秀吉の家臣として仕え、各地を転戦し武功を挙げ肥後北部を与えられたことで知られている。

祭神の加藤清正公は天正１６年（１５８８）から慶長１６年（１６１１）の２３年間肥後を支配した大名で隈本城（熊本城）の築城・土木・治水や領国経営の実務に長けた大名で、豊富秀吉の朝鮮出兵で武勲を高めたことから軍神として各地で祀られた。

清正公神格化の動きは日清・日露戦争という大陸侵略の過程で軍神的要素が付加され清正公信仰が活発化した。

しかし、韓国・朝鮮では清正や日本軍による侵略戦争による憎悪は消えず、歴史的遺恨の持つ意味を今改めて問い直してみる必要が出てきた。

祭祀地：道面

建立：弘化４年（１８４７）　祭礼：６月２３日

改修：明治４２年（１９０９）清正公没後三百年

　　近郷の７区１８２戸の寄進により修復

※清正尊像は大仏師定朝法印赤尾右京翁が彫刻し奉納した。

社殿は道面区中央の山腹にあり、急斜面に置かれた８８段の石段と白檀の鳥居が当時の面影を残している。昭和中期までは前夜から太鼓が打ち鳴らされ、露天商が立つほどの賑わいを見せた。

たこさま（高尾山）　鈴木さまを祀る

祭祀地：枦の原上

※枦原の高尾山には鈴木三公を祀る石碑が建立され、天草初代代官である鈴木三郎九郎重成命、正三和尚こと鈴木九大夫重三命（重成の兄）二代代官の鈴木伊兵衛重辰命の三神が祀ってある。

天草島内に３４座の分布を見るが、たこさまの鈴木さまは特に有名。現在は天草空港造成に伴い　空港脇に遷座まします。（移っていらっしゃいます）

創建：安永２年癸巳（１７７３）２月１４日　祭礼：２月１４日　願主：兵右衛門

※手水鉢寄進：弘化３年（１８４６）２月１４日　枦原中　世話人 恒助・為助。

将軍さま（鈴木さま）
　祭祀地：新休黒岩　創建：安政２年（１８５５）　祭礼：３月１４日　豊作祈願

城の神様（鈴木さま）
　祭祀地：寺領引地　創建：安政４年（１８５７）　祭礼：３月１８日

下の尾神社　通称「隠居さま」　無病息災・豊作祈願
　祭祀地：上掛道　祭礼：１０月（７月には虫追い祭り）
※掛道神社の元宮であろうと言われている。

馬頭神社　（本町育青会調査）
※仏さま系の馬頭観音ではなく、神社として祀られている。
祭祀地：梶山　創建：大正１１年（１９２２）　祭礼：３月１４日

牧の神　祭祀地：福岡上下　祭礼：２月初午の日　牛馬の無病祈願

イボ神様
　祭祀地：寺領平　（本町育青会調査）
　※仏さま系のイボ観音やイボ地蔵ではなく神として祀られている。

春祈祷
　毎年行われる地区総出の新春行事で、天照皇大神宮の掛け軸を飾り、御神酒や供え物をして、家内安全・五穀豊穣を祈願する。持ち寄りの材料を調理して総勢で祝う。

伊勢講
　昭和中期までは、正・五・九月には、座元は天照皇大神宮の掛け軸を飾り、御神酒や三宝に乗せる供え物を用意し、持ち寄りの材料を調理して地区住民総出で祀った。
　当初はお伊勢参り（伊勢神宮参拝）の旅費積立の名目があったが、後には地縁御利益といって頼母子講（無尽講）が主体になった。
　講金はクジ引きで落としたが、どうしても入り用の人には合議の上用立てた。崇拝者が集まって深夜までお籠りをした。

その他、ヤブサさまなどもろもろの神様が祀られている。

トップページへ戻る